

# チャレ\*くま通信

「チャレ\*くま通信」は就労移行支援事業所チャレジョブセンター熊谷が定期的に発行する広報誌です



編集部まへがま

通勤中バスの窓から見る桜が好きだ。皆堂々たる咲きざまと、強風に煽（あお）られても姿勢を崩すことはない。ふと足元を見ると、ニコニコと新小学生が六年生に連れられて歩いている。ああ、もうこんな季節か。なんて思いにふけながらタイを締める。今日から私も社会人だ。

## 就職・検定情報

▽今月は1名、就職が決定しました。技術者派遣サービスを手掛ける会社です。軽作業を中心に業務にあたります。見学や実習を重ねる中で、自分の強みを活かせる職場、仕事に巡り合えました。元気のよい挨拶で、その場の雰囲気やパツと明るくしてくれられることでしょう。おめでとつございます。

▽資格試験では、MOS (Word) スペシャルリストに1名、合格しました。学んだ内容を、参加しているセミナーの冊子制作で活かすなど、実践的な訓練を繰り返しました。そして、日本化粧品検定3級、準2級に1名が合格。興味のある分野の資格を調べ、火がついたように勉強。短期間のうちに合格を果たしました。みなさん、おめでとつございます。



## くま de レポート

## 「私の道、あなたの道、新たな指針」 赤裸々に語るは、新年度の目標

「道」とは常に自身を切り開いていくものである。新年度を迎え、緊張が押し寄せる中で私たちはどんな指針を掲げるのか。今回は、通所メンバーが実際に持つ「不安」を織り交ぜ、新年度の目標を赤裸々に語ってもらった。

### ■追い風、問いかけ

一年の経過が光速とまでは言わないが、音速と感ずるほどの早さを憶えたのは初めてだった。私はチャレジョブセンター熊谷にきてこの三月で一年になる。就労移行支援事業所の満期は通常二年であり、二年目から就職活動に入る人がほとんどだろう。正直に言っても自信は無い、だからこそ自信をつけるために通所している。創作や広報活動を通じて自身の能力を発見する日々の中で、どういった職業が向いているのかこれから深く考えていく必要がある。そのためには一年目よりさらに通所日と時間を自分で設定し、守っていか

ければならない。これからの人生、いつまでを豊かにできるのかという「問い」は私の選択次第だ。その「答え」は音を置き去りにして光り輝くわが生涯を終える瞬間まで、と今は答えない。

### ■「みち」なき道

目標は道しるべになれない。だからない。もう四月になった。人はやたらと「新しい目標」を立てたがる習性にある。年度目標のネタなんてない。正直、食傷気味である。考えたところで、精いっぱい今日を生きて、勉強に励む。健康に過ごす。私はこの程度の知能しか持ち合わせていない。賢い人の崇高な目標には到底及ばない。しかしそれがわたしという存在だ。このままでいいじゃないか。具体ではなく抽象、深いより浅い目標には人間性が出る。つくづく実感する。そんな自分だからこそ、今年度は考えるよりも、探す見つける。に重きを置いていきたい。ここで矛盾が生じる。冒頭で目標がないと言ったが、これもその一種ではないか。思いつかずとも自然に発生するのが人の面白いところだ。この感覚を大事にしていきたい。



人生の舵取りは  
感覚とともに

### ■そうだ、今を生きよう

「いまさら」。50代も半ばを過ぎたのに、貨物船の仕事をした。経験が全くないのに。この年齢で人生の舵（かじ）をきるの、そんなことを取り留めもなく考えていたとき、自分の生き様に不応を起した。生きる意味に疑問を持つと、目標なんて言っていられない。目標を掲げていないと、人生は充実しないと思っていた。未来というものは厄介だ。それが焦点になると、今が霞（かす）む。今日のことだけ考えよう。



発見をくり返す日々

「そうだ京都、行く。」というCMがあった。このノリがいい。ふと浮かんだことに引き寄せられる感覚。思いつきではない、直感だ。直感にいなされる一年。これでいい。そういえば、舵を操ることを操舵（そうた）と聞いた。やりたい仕事への舵はきれそうもないが、直感にいなされて生きるのも、ワクワクする。